

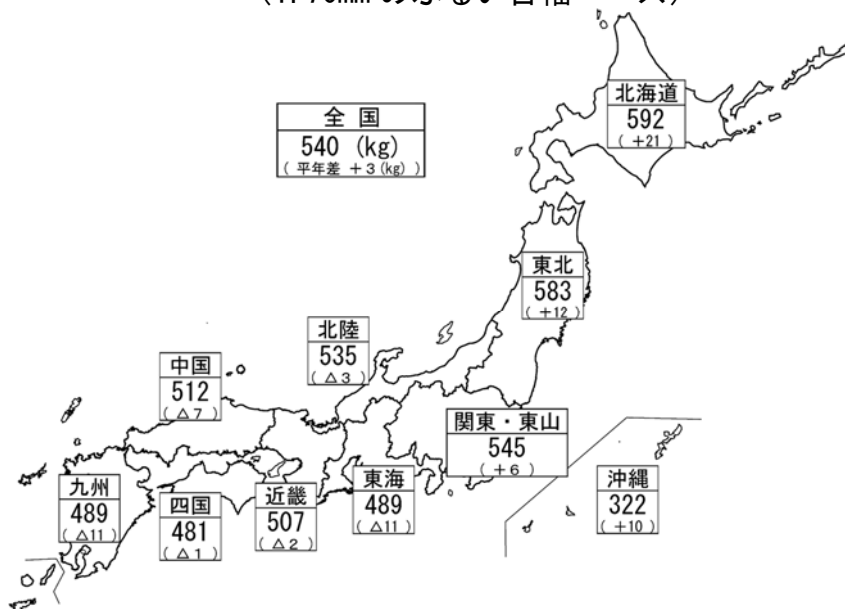
作物統計調査 令和6年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量

— 全国の10a当たり予想収量は540kgの見込み —

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は135万9,000ha（前年産に比べ1万5,000ha増加）となった。うち主食用作付面積は125万9,000ha（前年産に比べ1万7,000ha増加）となった。
- 2 10月25日現在における全国の10a当たり予想収量は540kgと見込まれる。
これは、全国的にはおおむね天候に恵まれたためである。なお、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足、8月以降の記録的な高温等の影響により収量が低下した。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は734万5,000t（前年産に比べ18万t増加）と見込まれる。このうち、主食用の予想収穫量は679万2,000t（前年産に比べ18万2,000t増加）と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101と見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（10月25日現在）
（1.70mmのふるい目幅ベース）



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積であり、主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（9ページの【参考1】参照）。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

◎ 累年データ

水稻の年次別推移（全国）

年 産	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成16年産	1,697,000	514	8,721,000	...	...	98
17	1,702,000	532	9,062,000	...	...	101
18	1,684,000	507	8,546,000	...	...	96
19	1,669,000	522	8,705,000	...	...	99
20	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99
2	1,462,000	531	7,763,000	1,366,000	7,226,000	99
3	1,403,000	539	7,563,000	1,303,000	7,007,000	101
4	1,355,000	536	7,269,000	1,251,000	6,701,000	100
5	1,344,000	533	7,165,000	1,242,000	6,610,000	101
6（概数値）	1,359,000	540	7,345,000	1,259,000	6,792,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和6年産は予想）である。

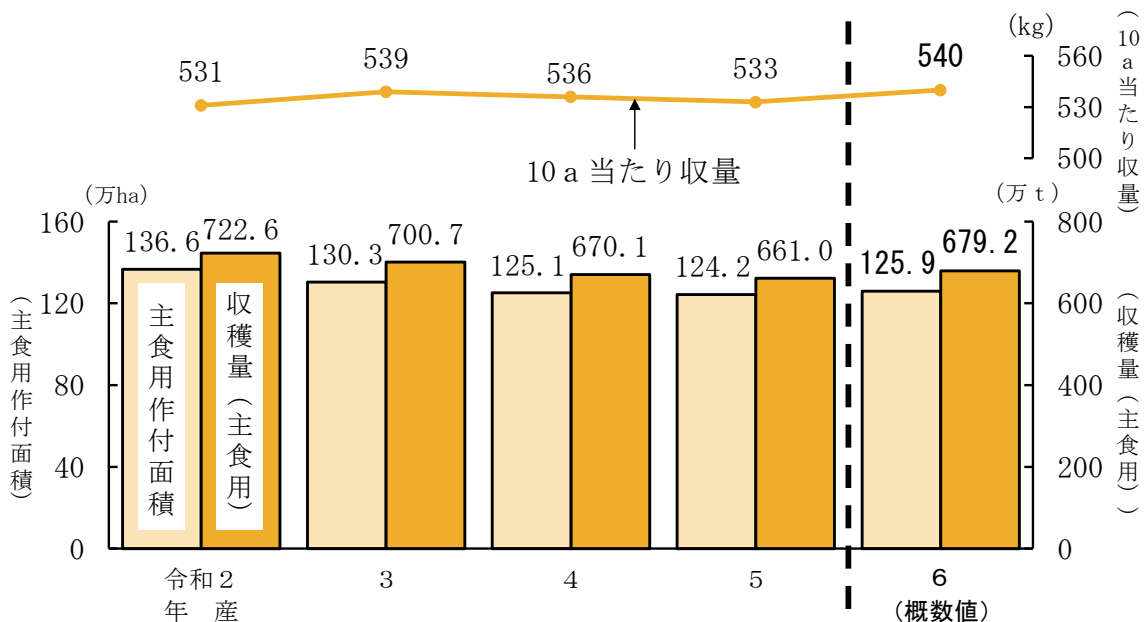
3 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、以下により算出している。

平成26年産以前 : 1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出。
 平成27年産から令和元年産まで : 全国農業地域ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅で選別された玄米を基に算出。
 令和2年産以降 : 都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

水稻の主食用作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（全国）



注：10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70 mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和6年産は予想）である。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合 45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（10 ページ【参考 2】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（全国）

		単位：％					
年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
令和元年産	100.0	0.7	1.4	1.9	2.8	15.3	77.9
2	100.0	0.7	1.4	1.9	2.9	14.4	78.7
3	100.0	0.8	1.4	1.8	2.8	14.7	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	14.9	77.9
5	100.0	0.6	1.0	1.3	2.1	10.2	84.8
6（概数値）	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	11.9	82.1
平 均 値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.7	13.9	79.6
対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	△ 2.0	2.5

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。

2 平均値は、直近 5 か年の重量割合の平均である。

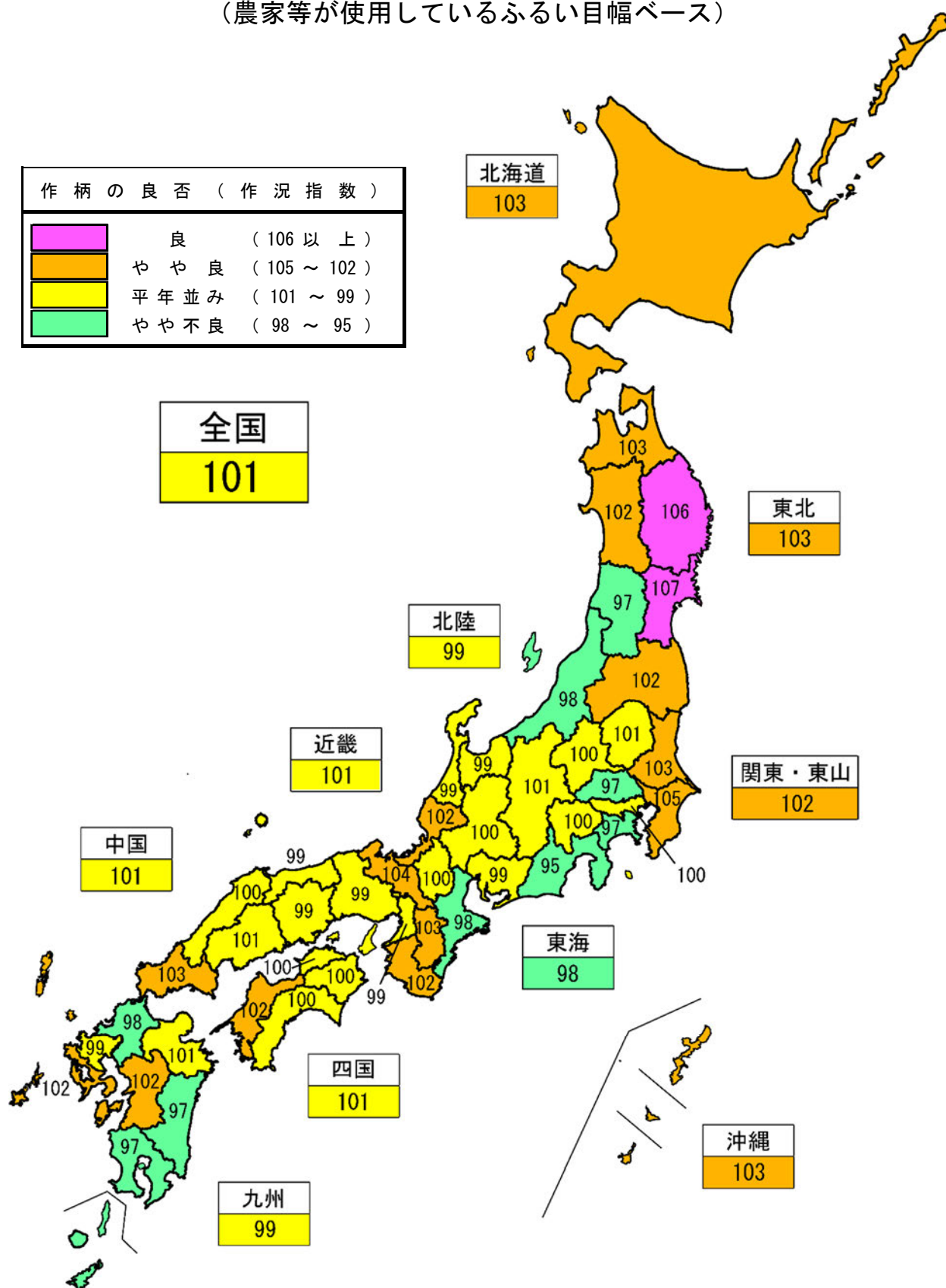
表 2 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（全国）

年 産		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
令和元年産	10 a 当たり収量	kg	528	524	517	507	492	411
	収穫量	t	7,762,000	7,708,000	7,599,000	7,452,000	7,234,000	6,047,000
2	10 a 当たり収量	kg	531	527	520	510	494	418
	収穫量	t	7,763,000	7,709,000	7,600,000	7,452,000	7,227,000	6,109,000
3	10 a 当たり収量	kg	539	535	527	517	502	423
	収穫量	t	7,563,000	7,502,000	7,397,000	7,260,000	7,049,000	5,937,000
4	10 a 当たり収量	kg	536	531	523	513	497	418
	収穫量	t	7,269,000	7,204,000	7,095,000	6,956,000	6,746,000	5,663,000
5	10 a 当たり収量	kg	533	530	524	518	506	452
	収穫量	t	7,165,000	7,122,000	7,050,000	6,957,000	6,807,000	6,076,000
6 (概数値)	10 a 当たり収量	kg	540	536	530	522	508	443
	収穫量	t	7,345,000	7,294,000	7,205,000	7,095,000	6,904,000	6,030,000
	対前年比	%	103	102	102	102	101	99

注：1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、全国の10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量(子実用)とは、全国の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（10月25日現在）
（農家等が使用しているふりい目幅ベース）



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふりい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

【調査結果】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は135万9,000ha（前年産に比べ1万5,000ha増加）となった。

また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は125万9,000ha（前年産に比べ1万7,000ha増加）となった（表3参照）。

- 2 10月25日現在における全国の10a当たり予想収量は、540kg（平年に比べ+3kg）と見込まれる。

これを地域別にみると、以下のとおりである。

北海道、東北及び関東・東山においては、5月以降、おおむね天候に恵まれ、全もみ数が平年以上に確保されたこと等から、北海道は592kg（平年に比べ+21kg）、東北は583kg（同+12kg）、関東・東山は545kg（同+6kg）と見込まれる。

北陸においては、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や9月下旬の大雨等の影響があったため、535kg（平年に比べ△3kg）と見込まれる。

東海、近畿、中国、四国及び九州においては、一部地域で6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足や8月以降の記録的な高温等の影響があったため、東海は489kg（平年に比べ△11kg）、近畿は507kg（同△2kg）、中国は512kg（同△7kg）、四国は481kg（同△1kg）、九州は489kg（同△11kg）と見込まれる。

沖縄県は、台風の影響もなく、おおむね天候も恵まれたことから、322kg（平年に比べ+10kg）が見込まれる。

- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は734万5,000t（前年産に比べ18万t増加）と見込まれる。このうち、主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、679万2,000t（前年産に比べ18万2,000t増加）と見込まれる（表3参照）。

- 4 10月25日現在におけるふりい目幅別重量分布状況は、前年産で最も多くの農家が使用していたふりい目幅である1.85mm以上の玄米の重量割合は96.6%と見込まれ、直近5か年平均値と比べて0.4ポイント高くなっている（表4参照）。

表3 令和6年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量
(全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	作 付 面 積 （ 子 実 用 ）			10 a 当たり予想収量			予 想 収 穫 量 （ 子 実 用 ）			主 食 用 作 付 面 積	予 想 収 穫 量 (主 食 用)	作 況 指 数
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	平 年 と の 比 較	前 年 産 と の 比 較	実 数 ③=①×②	前年産との比較				
		対 差	対 比		対 差	対 差		対 差	対 比			
	ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,359,000	15,000	101	540	3	7	7,345,000	180,000	103	1,259,000	6,792,000	101
北 海 道	95,000	1,700	102	592	21	13	562,400	22,200	104	83,700	495,500	103
東 北	358,400	9,300	103	583	12	14	2,091,000	103,000	105	319,800	1,865,000	103
北 陸	197,000	△ 700	100	535	△ 3	22	1,053,000	38,000	104	175,800	938,800	99
関東・東山	248,000	8,500	104	545	6	1	1,352,000	50,000	104	235,000	1,282,000	102
東 海	86,600	△ 200	100	489	△ 11	△ 5	423,100	△ 5,600	99	83,400	407,500	98
近 畿	94,000	△ 700	99	507	△ 2	4	476,900	800	100	90,600	459,600	101
中 国	93,100	△ 900	99	512	△ 7	△ 2	476,900	△ 6,200	99	90,400	463,000	101
四 国	42,700	△ 400	99	481	△ 1	△ 1	205,200	△ 2,500	99	42,300	203,600	101
九 州	143,700	△ 1,600	99	489	△ 11	△ 8	703,000	△ 19,000	97	138,200	676,000	99
沖 縄	599	23	104	322	10	1	1,930	80	104	557	1,790	103

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。
2 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 10 a 当たり予想収量の平年との比較は、10 a 当たり平年収量との比較である。
4 予想収穫量については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
5 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
6 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
7 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10 a 当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平年収量の加重平均を用いた。

表4 ふるい目幅別重量分布状況（10月25日現在）

単位：％

全 国 農業地域	区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
全 国	重量割合	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	11.9	82.1
	平 均 値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.7	13.9	79.6
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	△ 2.0	2.5
北 海 道	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	10.7	84.3
	平 均 値	100.0	0.6	0.9	1.2	1.9	10.3	85.1
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.4	△ 0.8
東 北	重量割合	100.0	0.5	1.1	1.3	2.2	10.5	84.4
	平 均 値	100.0	0.5	1.1	1.4	2.2	11.9	82.9
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	△ 1.4	1.5
北 陸	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
	平 均 値	100.0	0.6	1.0	1.3	2.3	12.7	82.1
	対平均差(ポイント)	0.0	0.3	0.3	0.2	0.5	0.5	△ 1.8
関東・東山	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.6	2.6	13.4	80.4
	平 均 値	100.0	0.8	1.3	1.8	2.9	16.8	76.4
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 3.4	4.0
東 海	重量割合	100.0	0.6	1.1	1.5	2.1	8.8	85.9
	平 均 値	100.0	0.8	1.2	1.7	2.3	10.5	83.5
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 1.7	2.4
近 畿	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.4	2.3	10.1	84.3
	平 均 値	100.0	0.9	1.5	1.9	2.7	13.2	79.8
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.5	△ 0.4	△ 3.1	4.5
中 国	重量割合	100.0	0.5	0.9	1.1	1.8	8.4	87.3
	平 均 値	100.0	0.9	1.5	2.0	2.7	13.8	79.1
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.9	△ 0.9	△ 5.4	8.2
四 国	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.5	2.4	11.6	82.6
	平 均 値	100.0	1.2	1.9	2.5	3.4	16.3	74.7
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.8	△ 1.0	△ 1.0	△ 4.7	7.9
九 州	重量割合	100.0	1.1	2.0	2.5	4.4	17.7	72.3
	平 均 値	100.0	1.3	2.5	3.1	4.7	21.1	67.3
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.5	△ 0.6	△ 0.3	△ 3.4	5.0

注：1 10月25日現在までに刈取り・調製が終了した作況標本筆等のデータにより取りまとめたものであり、次回公表において数値が変動することがある（以下同じ。）。

2 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表5 ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）（10月25日現在）

全 国 農業地域	区 分	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
全 国	10a 当たり収量	kg	540	536	530	522	508	443
	収穫量(子実用)	t	7,345,000	7,294,000	7,205,000	7,095,000	6,904,000	6,030,000
北 海 道	10a 当たり収量	kg	592	588	583	575	562	499
	収穫量(子実用)	t	562,400	559,000	553,400	546,700	534,300	474,100
東 北	10a 当たり収量	kg	583	580	574	566	553	492
	収穫量(子実用)	t	2,091,000	2,081,000	2,058,000	2,030,000	1,984,000	1,765,000
北 陸	10a 当たり収量	kg	535	530	523	515	500	430
	収穫量(子実用)	t	1,053,000	1,044,000	1,030,000	1,014,000	984,600	845,600
関東・東山	10a 当たり収量	kg	545	541	534	525	511	438
	収穫量(子実用)	t	1,352,000	1,341,000	1,325,000	1,303,000	1,268,000	1,087,000
東 海	10a 当たり収量	kg	489	486	481	473	463	420
	収穫量(子実用)	t	423,100	420,600	415,900	409,600	400,700	363,400
近 畿	10a 当たり収量	kg	507	503	497	490	479	427
	収穫量(子実用)	t	476,900	473,100	467,800	461,200	450,200	402,000
中 国	10a 当たり収量	kg	512	509	505	499	490	447
	収穫量(子実用)	t	476,900	474,500	470,200	465,000	456,400	416,300
四 国	10a 当たり収量	kg	481	477	472	465	453	397
	収穫量(子実用)	t	205,200	203,600	201,300	198,200	193,300	169,500
九 州	10a 当たり収量	kg	489	484	474	462	440	354
	収穫量(子実用)	t	703,000	695,300	681,200	663,600	632,700	508,300

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国又は全国農業地域別の10a 当たり予想収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国又は全国農業地域別の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

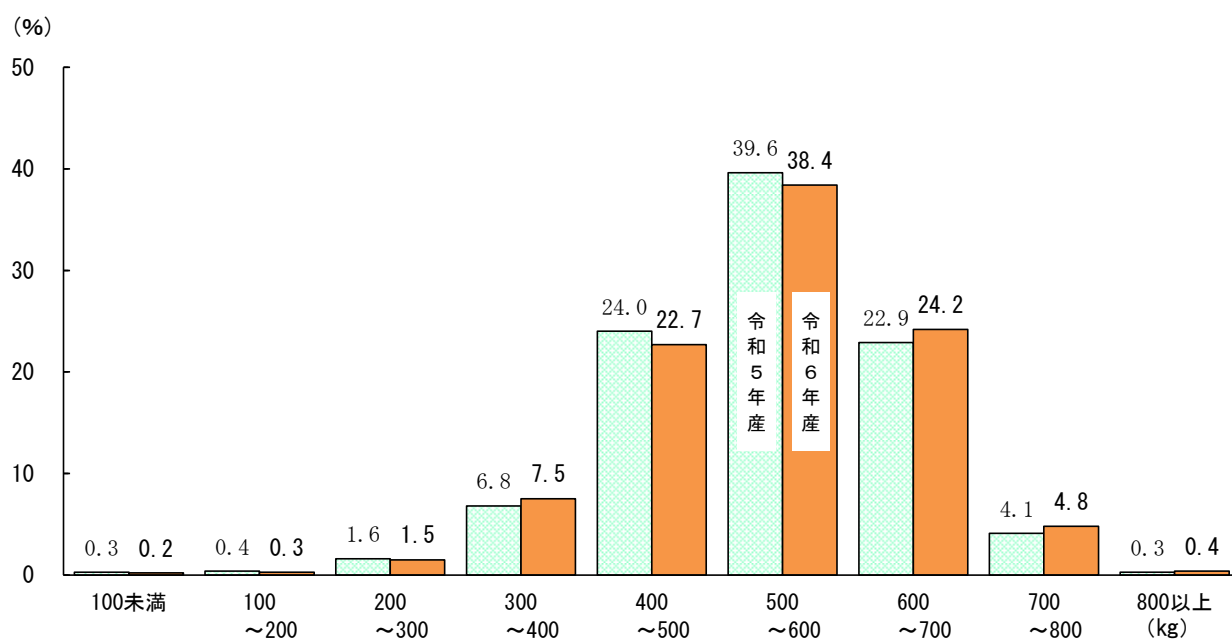
表6 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況
(10月25日現在)

単位：％

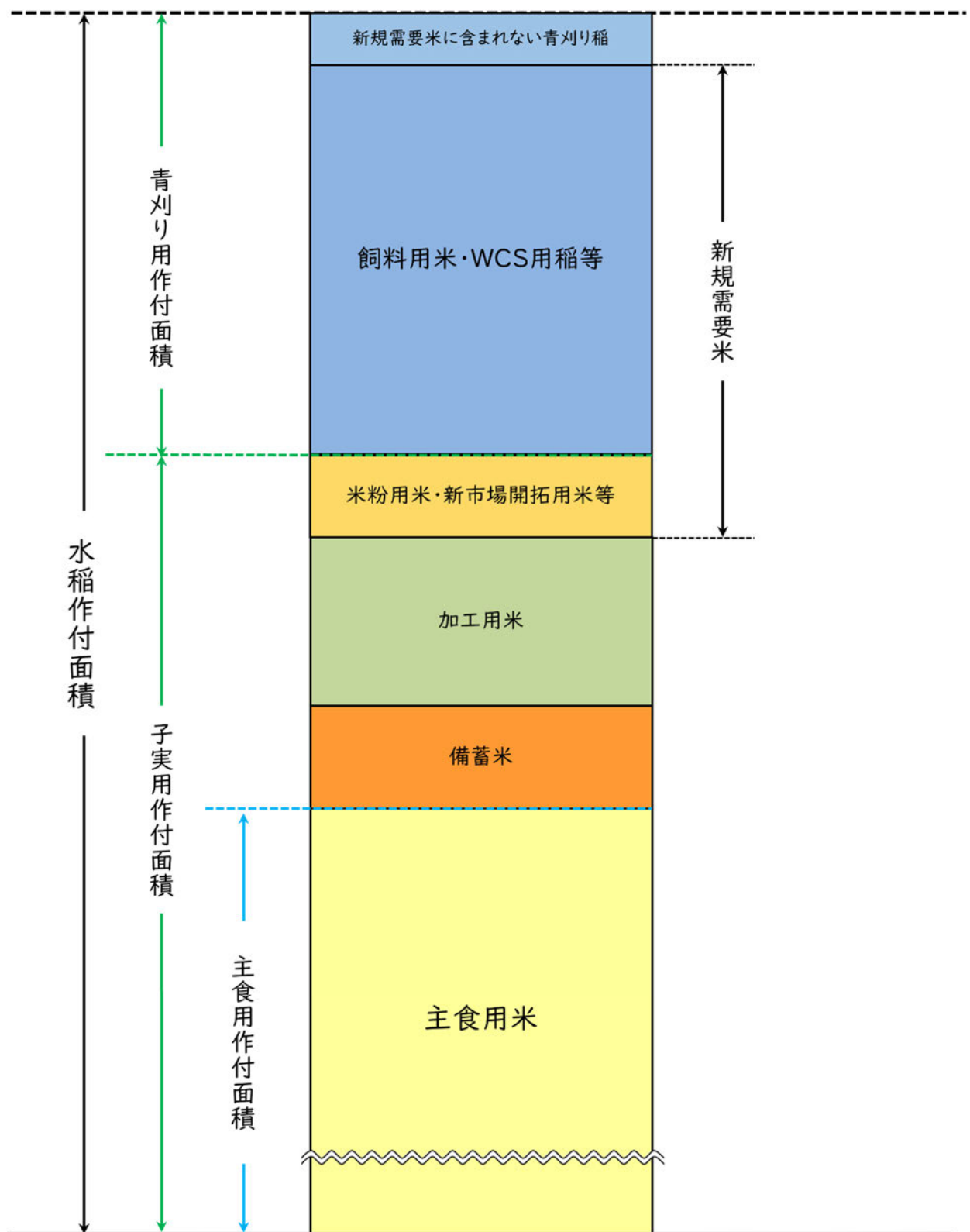
全 国 農業地域	区 分	計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
全 国	筆数割合	100.0	0.2	0.3	1.5	7.5	22.7	38.4	24.2	4.8	0.4
	前 年 値	100.0	0.3	0.4	1.6	6.8	24.0	39.6	22.9	4.1	0.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	0.7	△ 1.3	△ 1.2	1.3	0.7	0.1
北 海 道	筆数割合	100.0	—	—	—	1.8	9.0	39.6	39.6	9.8	0.2
	前 年 値	100.0	—	—	0.3	1.0	9.8	45.0	38.8	4.8	0.3
	対前年差(ポイント)	0.0	—	—	△ 0.3	0.8	△ 0.8	△ 5.4	0.8	5.0	△ 0.1
東 北	筆数割合	100.0	0.1	0.1	1.0	2.0	9.5	35.2	41.1	10.4	0.6
	前 年 値	100.0	—	0.1	0.5	3.0	13.4	38.9	35.1	8.5	0.5
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	0.5	△ 1.0	△ 3.9	△ 3.7	6.0	1.9	0.1
北 陸	筆数割合	100.0	—	0.2	1.0	4.7	20.7	46.7	25.3	1.4	—
	前 年 値	100.0	0.4	1.2	2.0	6.8	26.4	39.0	21.2	3.0	—
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 1.0	△ 1.0	△ 2.1	△ 5.7	7.7	4.1	△ 1.6	—
関東・東山	筆数割合	100.0	—	0.3	0.8	5.7	20.0	39.0	26.4	7.1	0.7
	前 年 値	100.0	0.1	—	0.8	5.2	22.0	39.4	25.2	6.7	0.6
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.3	0.0	0.5	△ 2.0	△ 0.4	1.2	0.4	0.1
東 海	筆数割合	100.0	—	0.5	1.6	13.1	33.8	36.2	13.4	1.4	—
	前 年 値	100.0	0.1	0.9	2.6	8.8	32.2	37.9	16.2	1.3	—
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 1.0	4.3	1.6	△ 1.7	△ 2.8	0.1	—
近 畿	筆数割合	100.0	0.1	0.4	1.5	9.1	28.0	43.5	14.8	2.1	0.5
	前 年 値	100.0	0.2	0.2	2.2	8.3	30.6	42.6	14.2	1.7	—
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.2	△ 0.7	0.8	△ 2.6	0.9	0.6	0.4	0.5
中 国	筆数割合	100.0	0.7	1.0	4.0	10.5	22.3	34.8	20.9	4.9	0.9
	前 年 値	100.0	0.3	0.4	1.9	9.1	27.3	37.7	19.5	3.7	0.1
	対前年差(ポイント)	0.0	0.4	0.6	2.1	1.4	△ 5.0	△ 2.9	1.4	1.2	0.8
四 国	筆数割合	100.0	—	0.4	2.7	15.3	36.3	32.4	12.7	0.2	—
	前 年 値	100.0	0.5	0.7	3.6	13.8	33.3	35.8	11.0	1.0	0.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.9	1.5	3.0	△ 3.4	1.7	△ 0.8	△ 0.3
九 州	筆数割合	100.0	0.5	0.3	1.9	12.0	34.7	37.9	11.7	0.9	0.1
	前 年 値	100.0	1.0	0.4	2.5	9.4	30.0	40.8	15.2	0.6	0.1
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.5	△ 0.1	△ 0.6	2.6	4.7	△ 2.9	△ 3.5	0.3	0.0

注：1 10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 10月25日現在までに刈取り・調製が終了した作況標本筆のデータにより取りまとめたものであり、次回公表において数値が変動することがある。
3 沖縄については、作況標本筆を設置していないことから、調査結果を表記していない。

図3 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況
(10月25日現在、全国)



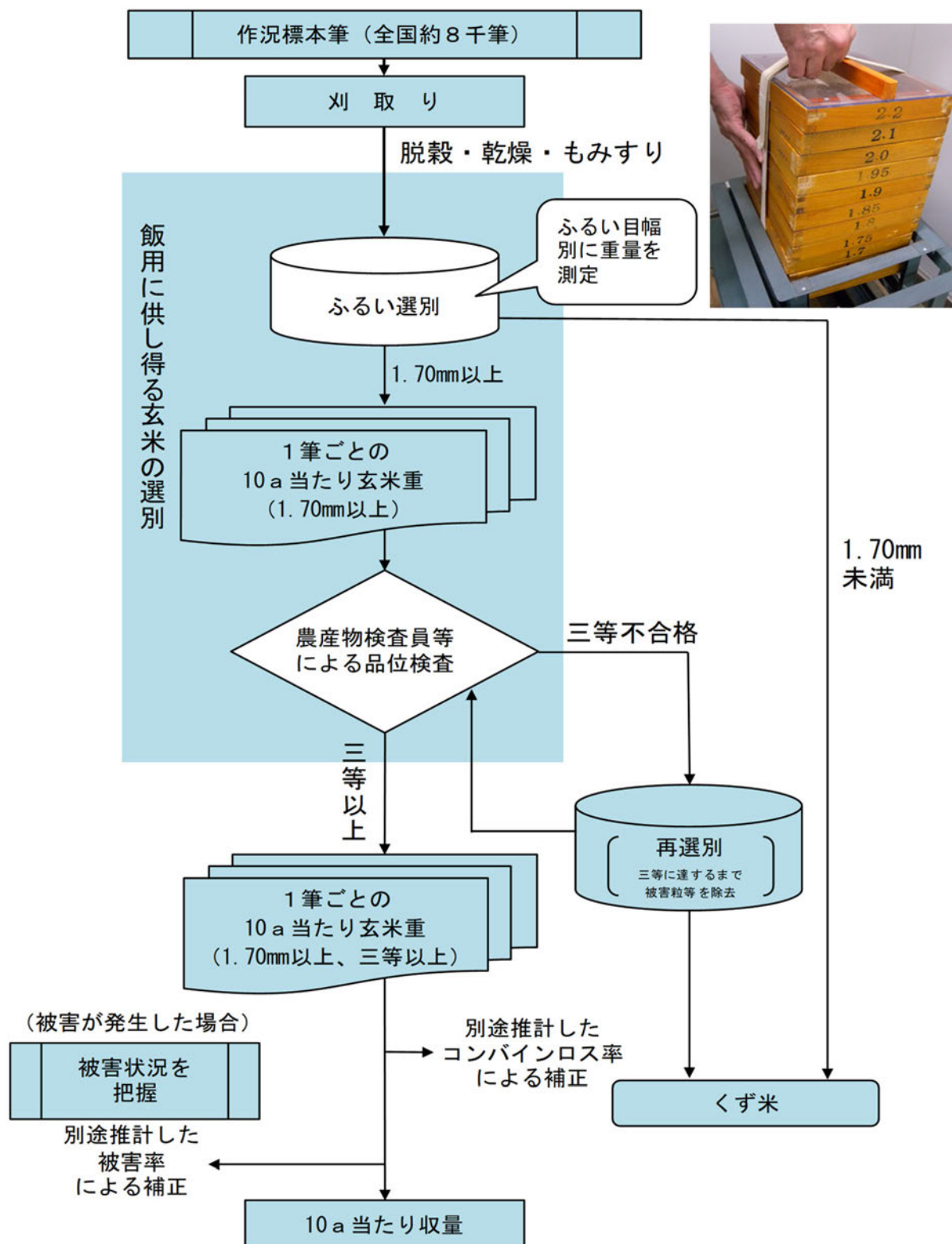
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



【参考3】

作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。^{ふで}）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



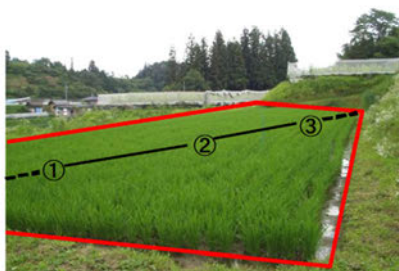
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040188541&ext=xls>

【調査の概要】

・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y4

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 次回（収穫期）の公表は、令和6年12月上旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞水稻の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

- ・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

- ・予想収穫量に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



SAFF

データの力で。

農林水産統計
Statistics of Agriculture,
Forestry and Fisheries

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬 ～ 令和7年 2月末 農林業経営体調査

令和7年 1月中旬 ～ 令和7年 2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬 ～ 令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

